



答えはひとつじゃない。だからみんなでお考えましょう！

「ミレニアム育児そーだんしつ」

■今回のお悩みは……。中学2年の娘に携帯をせがまれたけれど……？

中学2年の娘から、携帯電話を買ってほしいとせがまれました。仲の良い友達もみんな持っていて、メール交換をするらしいのです。携帯電話が直接、非行に結びつくとは考えられませんが、中学生に携帯電話が必要とも思えませんし。しかし、お小遣いの金額やスカート丈など、お友達のみんがやっているから、などと言われるとつい許してしまっています。今回もまた我が家の教育方針を買きたくても「いじめ」の対象になるのではと心配で厳しいことが言えません。どうしたらよいのでしょうか？

ルーズソックスもスカートも、そのうち元に戻りますから

皇学館大学教授

萩 吉康先生 (50代)

お気持ちよく分かります。我が家の「教育方針」があったとしても大変買にくい時代になりました。親として「少し厳しいかな」と思う位の気持ちがとても重要だと思います。子供は、そのような親の気持ちを充分理解してくれずし、「私のことを愛してくれているんだな」とも思ってくれるでしょう。そこで「我が家の携帯電話の使用ルール」のようなものを家族全員で話し合って決めてはいいですか。その上で娘さんも納得すれば持たせてあげればいいと思います。この年齢の子、特に女の子は、大人が考えている以上に仲間との連帯意識が強く、友達との交流を大事に思う時期です。スカートの丈も大目に見てあげてはいいでしょうか。そのうちにルーズソックスもスカート丈も、元に戻りますから。

確固たる教育方針があったなら心配なし

喜んで買ってあげてください。家計的に許せば、もしお母さんが持っていないなら、娘さんと一緒に使い始めるのいいと思います。新しいものに興味あることは、前向きな良い事と考えます。また確固たる教育方針があり、今までもそれに沿った教育をされてきたのなら心配はないと思います。大きな心で娘さんを信用して、「つい」ではなく、自分の考えで「はっきり」許せばよいのでは……。 (主婦 40代)

流行にとらわれず、自分らしさを大切に

私も同年代の女子を持つ親であり同様に悩みましたが、子供と話し合い、お互い納得した上で買い与えないことになりました。携帯に頼ることによって、それ以外の交流の仕方が下手になったり、言葉不足、心のつながりの喪失等々、無味乾燥な人間に育つのではないかと危惧しています。目先の便利さ、流行にとらわれず、自分らしさを育てるようになって欲しいのです。 (主婦 40代)

親の気持ちをしっかりと伝えて

時代が時代なのでいじめが心配でしょうが、子供さんにはみんなと同じになんてしても、お友達と仲良くできるということをつかんでほしいと思います。親の方も、なんでも反対するのではなく、許せる部分と許せない部分を、しっかりと伝えてみてはいいでしょうか。 (主婦 40代)

お願い 「ミレニアム育児そーだんしつ」では、こんな悩みをこんな人に相談してみたいなど、ご希望、ご意見をお待ちしております。子どもセンター事務局までどしどしお便り下さい。

お気持ちよく分かります。我が家の「教育方針」があったとしても大変買にくい時代になりました。親として「少し厳しいかな」と思う位の気持ちがとても重要だと思います。子供は、そのような親の気持ちを充分理解してくれずし、「私のことを愛してくれているんだな」とも思ってくれるで



ケータイは自己チューなおもちゃ

ケータイがないと、グループ内に居場所がないと思いつめるのであれば買うしかないでしょう。ただ中学生の携帯は実用よりも仲間内の話題に終始し、自分本位の世界を築くための魔法のおもちゃに過ぎません。ほしいものを何でも手にいれなければ気に入らない自己チューな子ほど、早期に携帯を持っている様です。親はそれを自覚して、時間の制限や使用金額にルール作りが必要です。便利な発明品を、自己チュー人間を造る恐ろしいモノにしないためにもー (主婦 40代)

金銭感覚を身につけて！

まず、娘さんと話をしましょう。携帯電話で何をしたいのか、月々どれくらいの費用がかかるのか、誰がその費用を払うのかなど。また親の負担金額が家計にどう反映されるのかをよく認識させた上で決めたいですね。 (公務員 男性40代)

ただいま活動中

子どもの居場所を考える会



不登校の子どもたちをありのままに受け入れるそんな居場所を訪ねました。

親も子もほっとする安らぎの場

全国的に不登校の子ども数は年々増え続け、四日市市でも昨年は小中学生合わせて1,948件、およそ10人に1人が不登校を経験するという高い数字になっています。一言に不登校といってもそれまでの経緯や原因は様々で、画一的でないきめ細かい対応が求められています。そんな中、子どもの居場所を考える会では毎週金曜日、市内久保田にある憩いの家を開放して、不登校の子どもたちとその親たちの集いの場を提供しています。

子どもたちの成長をじっくりと見守る

私が訪ねた10月6日は14人の親子が集まっていました。自宅の居間を思わせる畳の部屋で子どもたちは思い思いにおもちゃやゲームで仲間と遊び、お母さんたちは子どもと遊んだりおしゃべりに花を咲かせたりと、アットホームな雰囲気の中でんびりと時間が過ぎていきました。代表の原順子さんは、「ここは学校への復帰のみを目的とした場所ではなく、同じ仲間とふれあうことで不安や苦しみを和らげる“安らぎの場”です。不登校をその子の生き方として受けとめ、子どもたちが自分の道を見つけて動き出すのを私たち大人はじっくりと見守っていきたいのです」と会の趣旨を話して下さいました。原さんご自身の子どもの不登校をきっかけにこの会を発足されたとのことでした。

経験したからこそ気づいた大切なこと

「子どもが不登校になるとまず親は動転し、まわりの無理解などもあって、自分の育て方が悪かったのかと自責の念でいっぱいになります。そして気持ちに余裕が持てなくなり、何とか学校へ行かせよう

不登校の子どもたちの生き方を認め、その子の意思と個性を尊重しながら成長をサポートする場づくりを目指して発足。週1回憩いの家を開放すると共に会報によるネットワークづくりやクリスマス会、ハイキング等の行事を企画する。ふれあいコンサート等で多くの子どもたちとの交流をはかっている。



ふれあいコンサートでミュージカルを演じる子どもたち

と子どもをますます追いつめてしまう。でもそれはあまり良い結果にならないんです。そんな時こういう場所があれば、自分たちだけじゃないんだと親も子もほっとして、今の状態を肯定できるようになるんです」と参加したお母さんたち。親が子どもを認め、見守るためには、親にも心の余裕が必要です。そのためには親の心をサポートする環境が大切であるということでしょうか。仲間と出会うことで親も子も気持ちにゆとりができ、親は子を、子は自分を認めることから新たな道を探ることができる。実際に経験したお母さんたちだからこそ気づいた、とても大切なことのように思いました。

最後に、最年長の少年がこう語ってくれました。「子どもたちがここに来たくなるような意味を持つべきだ。そしてその意味は僕たち子どもが見つかるものだと思う」。少年は、今、自分の将来の夢に向けて歩き出しているということです。

＜お問い合わせ先＞

原 順子さん TEL0593-31-0503

ホームページアドレス <http://www.smileforever.gr.jp>